

Q4 題材を考えるときのポイントは？

A 題材に必然性をもたせ、生徒が自分で主題を決めることができるようにし、一人一人の多様な考え方や捉え方を認め合えるような題材にします。

ポイント①：生徒の思いや願いを大切にするために、発想や構想に関する項目の全ての事項に「主題を生み出す」ことを位置付けましょう。

「主題を生み出す」とは、生徒自らが感じ取ったことや考えたこと、目的や条件などを基に、「自分は何を表したいのか、何をつくりたいのか、どのような思いで表現しようとしているのか」など、強く表したいことを心の中に思い描くことです。

美術科の授業で一番大切にしたいことは、生徒の思いや願い（何を表したい、何をつくりたい、どのようにつくりたい）です。これが発想や構想の基盤になります。表現ありきではなく、どのような活動にも発想や構想に関する場面で、主題を生み出すことができるようにしましょう。

ア 表現領域の改善
 主体的で創造的な表現の学習を重視し、「A表現」(1)において、「ア 感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想」及び「イ 目的や機能などを考えた発想や構想」の全ての事項に「主題を生み出すこと」を位置付け、表現の学習において、生徒自らが強く表したいことを心の中に思い描き、豊かに発想や構想することを重視して改善を図った。

文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 美術編」（下線は本研究による）

今日の授業は「風景画を描こう」です。参考作品もあるので、各自で好きな場所を決めて工夫しましょう。

何のために描くのかな…。

今日の授業は「私の大切な場所」です。学校の中で思い出に残っている場所の思い出を考えながら表現しましょう。ポートフォリオを確認して、最適な表現方法も考えてみましょう。

思い出に残っている場所を描きたいな！この前の時間に学んだ方法を使うのもいいかも！

同じような活動内容であっても、生徒が「主題を生み出す」ことができるような教師の働き掛けが大切ですね！



ポイント② : 生徒の「やってみたい!」を引き出しましょう。

題材の導入の段階における投げ掛けや提案の内容、方法を工夫しましょう。生徒の気持ちが動かされるような何かがあれば、生徒は題材に興味をもち、意欲的になっていきます。また、生徒が「やってみたい!」と思う授業では、まず生徒が「できる」と感じる事が大切です。その上で、「自分だったらこうしたい」「どうすればこうなるのかな」などの考えや疑問が出てくるようにしましょう。

扱う素材の魅力や扱う作品の魅力が十分に伝わるようにしたり、資料などの提示方法を工夫して、パターン化を避けたりすることも大切です!



ポイント③ : 生徒の身近なこと、身の回りのことにつなげることができるようにしましょう。

題材の導入の段階では、対象への共感や課題意識などが重要です。身近な対象の観察、身近な課題、地域での工夫点などを取り扱うことなども考えられます。特に第1学年では、対象が身近なものになるように配慮しましょう。実態に応じて、どのように課題を見いだしたり情報を提示したりすればよいか考えましょう。以下は、題材における例です。



佐賀城本丸歴史館のイベントを活用
 (「プロジェクションマッピングの可能性」)



校内の植物を表現対象に (「私が感じた生命力」)



地元の企業、デザイナー (GT) を活用 (「私が考える優しさのかたち」)